

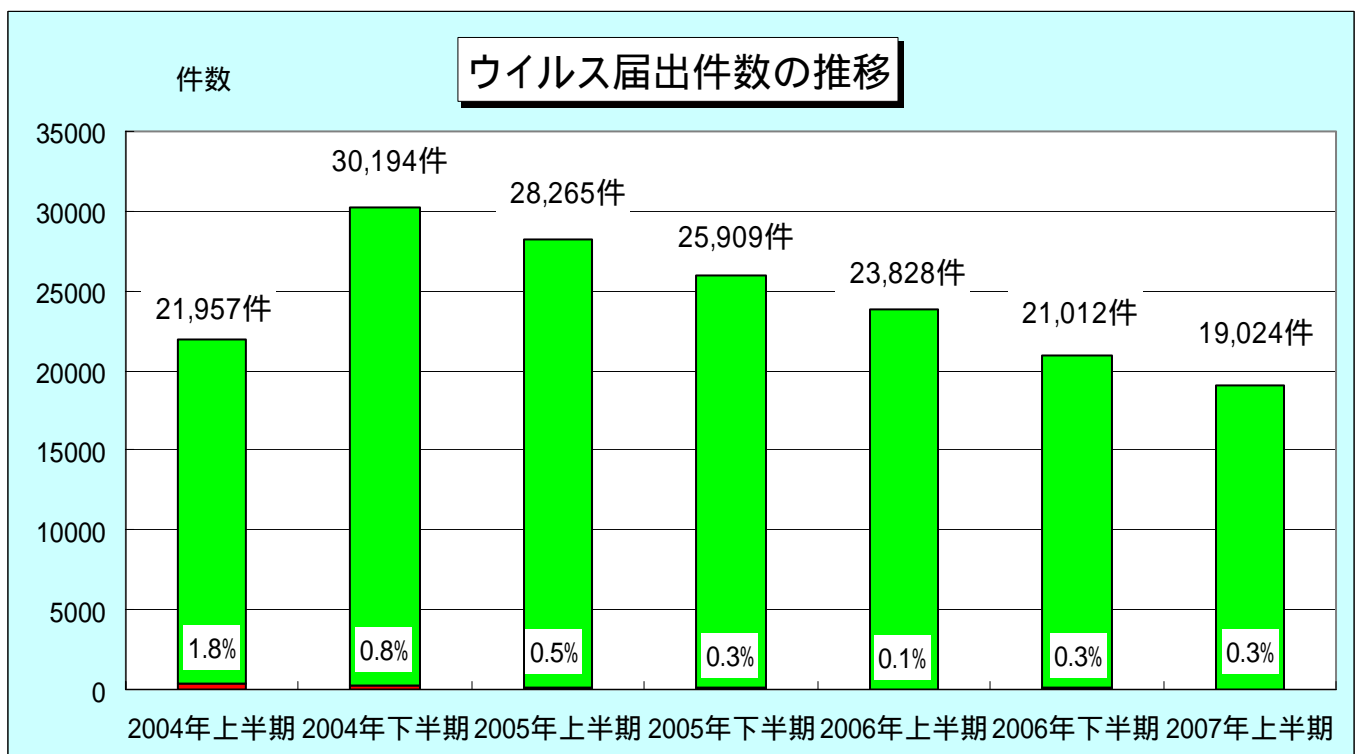
2007年上半期[1月～6月]コンピュータウイルス届出状況

独立行政法人 情報処理推進機構(略称:IPA 理事長:藤原 武平太)は、2007年上半期[1月～6月]のコンピュータウイルス届出状況をまとめました。

1. 届出件数

届出件数は、2004年下半期の30,194件をピークに継続して減少傾向にあります。2007年上半期は19,024件と、2003年下半期以来、2万件を下回る件数となりました。

下記グラフは、IPAセキュリティセンターが受け付けた半期(6ヶ月)ごとの届出件数の推移を示したものです。

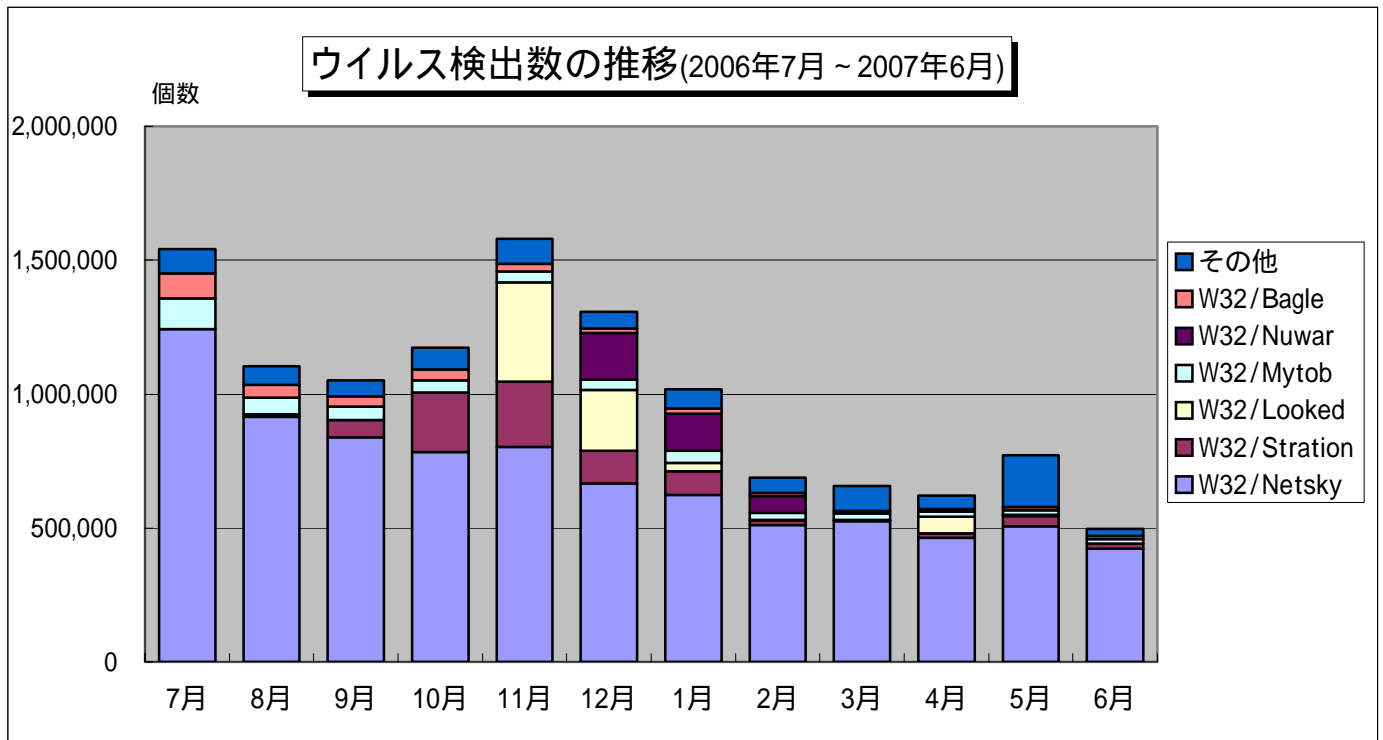


図中の%表示は感染被害に遭った割合。

2. ウイルス検出数の推移

1年間の検出数の推移を見ると、増減はあるものの、全体としてみると減少傾向にあります。2006年10月のW32/Strationや11月のW32/Lookedなど、新種や亜種が出現したタイミングでは、一時的に増加するケースがあります。しかし、被害は2,3ヶ月で収束し、減少に転じました。

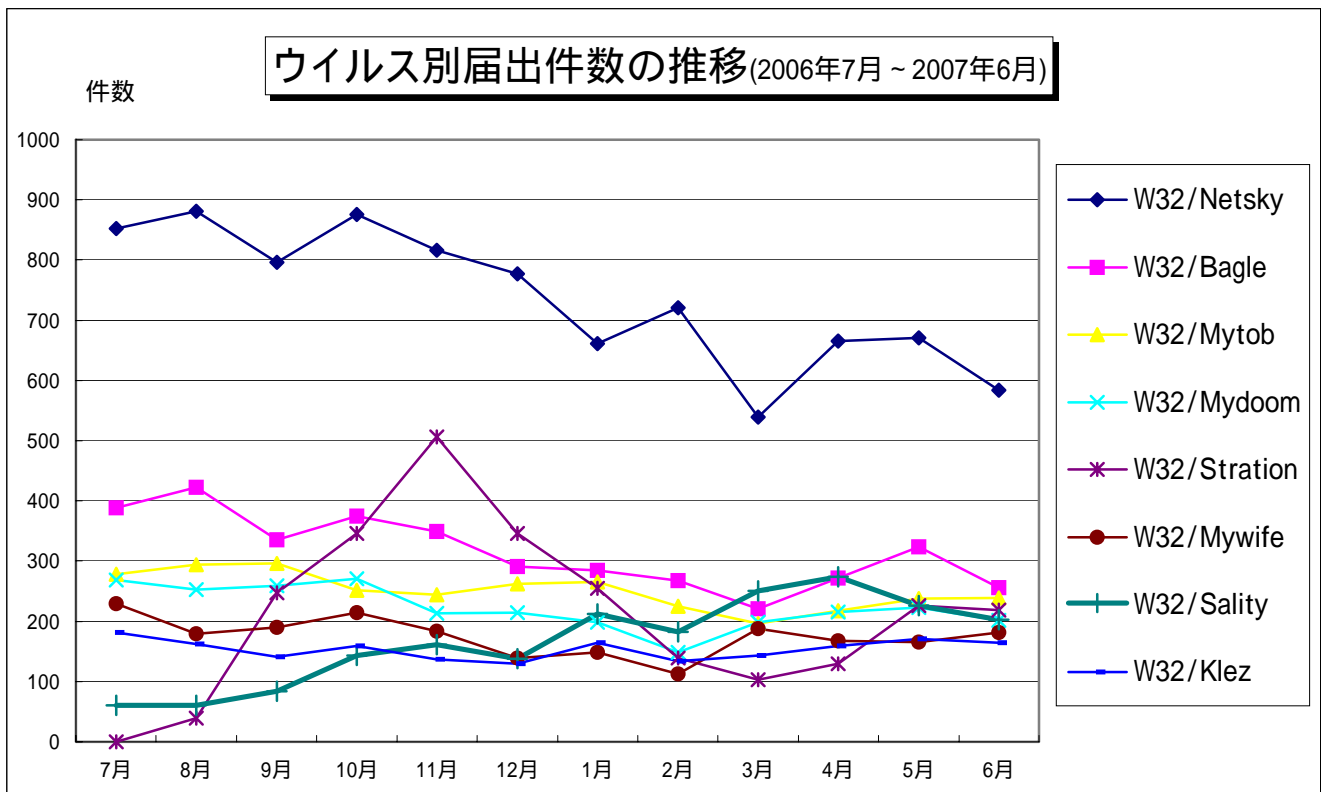
なお、W32/Netskyが依然として総検出数の大多数を占めている状況が継続しています。



3. ウィルス別届出件数

IPA に届けられたウイルス別届出件数の推移を見ると、検出数と同じく、W32/Netsky が突出している状況が伺えます。また、W32/Stration の届出が 2006 年 11 月に多数寄せられました。

このグラフにあるウイルスは、感染しても見た目にはわかる症状がなく、感染していることに気付かないケースが多いと推測されます。不審な症状がなくても、セキュリティ対策ソフトを利用して、定期的にウイルスチェックを実施するようにしてください。



お問い合わせ先
 独立行政法人 情報処理推進機構 セキュリティセンター
 花村 / 加賀谷 / 宮本
 Tel:03-5978-7527 Fax:03-5978-7518 E-mail:isec-info@ipa.go.jp